



分子神経科学セミナー

神経免疫連関による 疼痛制御の新しいメカニズム

田中 達英 先生

奈良県立医科大学 医学部 解剖学第2講座
講師

様々な感覚刺激は、感覚情報として符号化され一次求心性神経を介して脳へと伝達される。この過程は、感覚受容器が外部の刺激を受け取り、それを神経信号に変換することによって実現される。痛み研究はこれまで痛覚伝導路に着目した研究が主流であったが、近年、神経細胞と空間的に近接する非神経細胞、特に脊髄におけるミクログリアやアストロサイトが慢性疼痛の発症と維持に重要であることが数多く報告されている。一方で、末梢における非神経細胞が痛みの伝導にどのように関与しているのか不明な点が多い。本セミナーでは皮膚真皮層および遠位結腸の粘膜固有層における一次求心性神経周囲のマクロファージに着目した痛覚センシング機構について我々の研究成果を紹介したい。

日時 令和7年**1月27日**（月）

16:00～17:00

場所 最先端医療イノベーションセンター棟 2階
セミナー室A（対面形式のみ）

お問い合わせ

大阪大学大学院 医学系研究科 分子神経科学

山下 俊英 代) 中西

nakanishi@molneu.med.osaka-u.ac.jp